

## 天然水域で採捕されたワタカの食性について

根本 守仁

### ◆背景・目的

水草の大量繁茂を抑制するためにワタカの種苗放流を実施しており、近年では放流により資源が増えてきている。しかし、当初の目的のように、放流したワタカが本当に水草を摂餌しているのか確認されていない。そこで、漁獲されたワタカの消化管内容物の調査を実施した。

### ◆成果の内容・特徴

- ・琵琶湖北湖で8～12月に漁獲された1歳魚以上のワタカ81尾について調査した。このうち、75尾についてはALC標識により放流魚であることが確認された。
- ・調査は、消化管内容物の重量を計量後に、内容物の種類を水草、糸状藻類、その他、および何も摂餌していないに分類した。なお、昆虫類の成虫および幼虫と思われるものがみられたが、砕けており断定できなかったためその他として扱った。
- ・月別の魚体重に占める消化管内容物重量の割合は、8月で最も多く平均4.69%、その後徐々に低下し、12月では0.11%となった。
- ・月別の消化管内容物の種類別の出現頻度を表1に示した。8～10月に漁獲されたすべてのワタカで水草を摂餌していた。そして、11月以降は水草を摂餌しているワタカの割合が低下し、糸状藻類やその他を摂餌しているものの割合が増えた。さらに、12月では何も摂餌していないものが45.0%を占めていた。

### ◆成果の活用・留意点

ワタカの成長期である8～10月に水草を大量に摂餌していることが確認され、ワタカの種苗放流が水草大量繁茂の抑制に効果があることが実証された。

表1 琵琶湖北湖で漁獲されたワタカの月別の消化管内容物の種類別の出現頻度

月	調査尾数(尾)	出現頻度 (%)			
		水草	糸状藻類	その他	空
8	5	100.0	0.0	0.0	0.0
9	14	100.0	0.0	7.1	0.0
10	14	100.0	0.0	7.1	0.0
11	28	78.6	64.3	10.7	3.6
12	20	20.0	25.0	15.0	45.0

※ 本報告は、水産庁による平成20年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である。